

# 亞炭香報

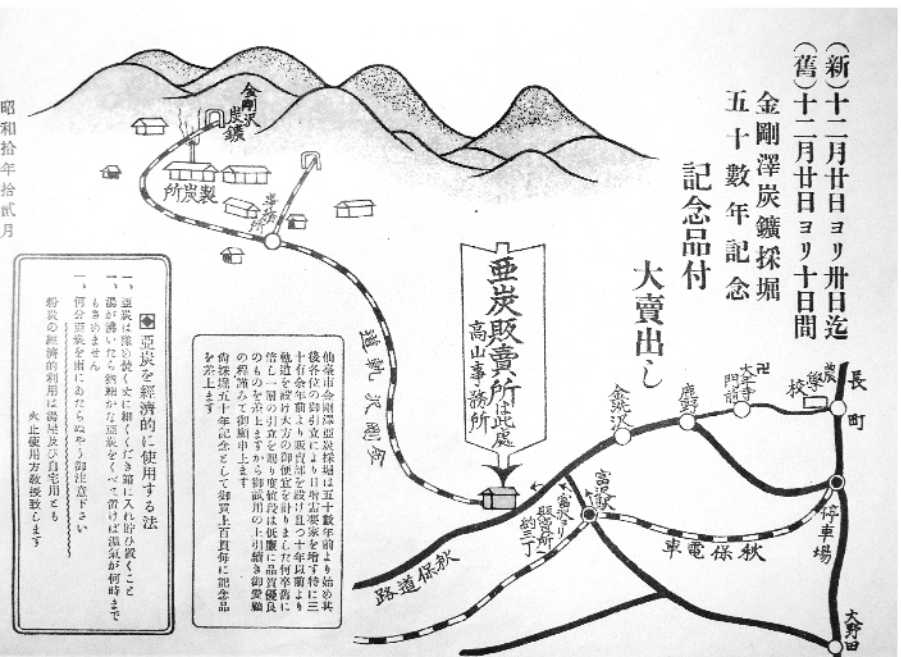
発行所 亜炭広報社  
編集人 伊達伸明  
第三号  
平成二十五年 一月三十日

21世紀の埋木細工

## レウレモ

山・川埋木材 持込み受付中  
お気軽に ご相談ください  
埋木ウクレレ化保存計画

# 幻の金剛沢亞炭軌道



昭和10年に配布された金剛沢炭鉱の亜炭大売り出しチラシ

## トロツコが走った時代

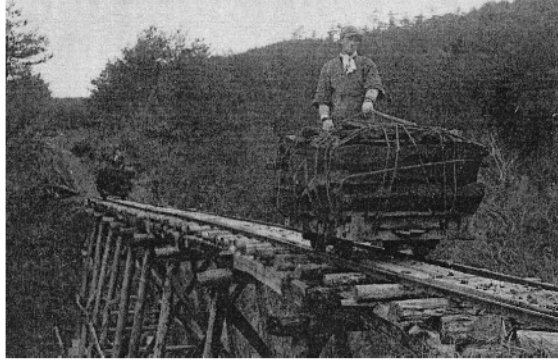
戦前の一時期、八木山から西多賀にかけて亜炭運搬用のトロツコ軌道が通っていた。鉄路・廃線マニアの間でもほとんど語られることのないこの軌道の残影を追って現地を歩いてみた。



八木山 人物伝  
山野を見守り60年 鉱山跡も

ひしめまじんべい 菱沼仁平さん(79)  
水の流れや山野草の様子などから山の変化を敏感に察知する独特の自然観察眼を持つ。動植物の生態にも詳しく、図面資料には残らない「土地のすがた」に精通している。鉤取在住。

戦時中の乱伐採で細い木ばかり残った鉤取の山麓が次第に開発され始めた昭和27年、菱沼さんは地元の開拓農業協同組合に入る。一帯を耕作農地として開拓するため、亜炭鉱山を含む当時の鉤取とその周辺山野に直接分け入って、測量や整地に従事。そのかたわら、持ち前の観察眼と洞察力で地形、動植物、四季の変化などを体で学び、今やうかがい知ることが出来なくなった当初の姿を目に焼きつけた。

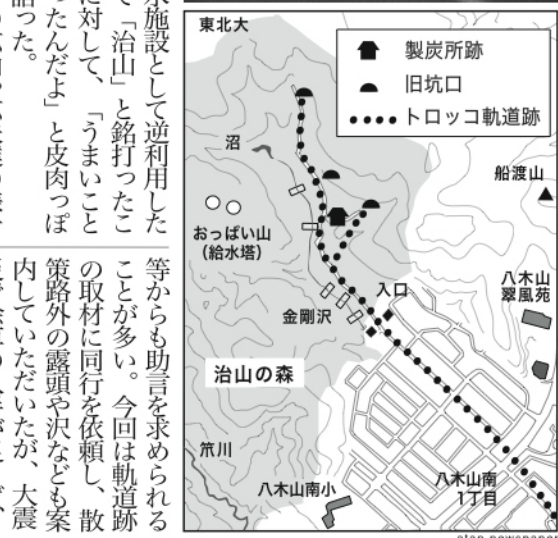


右II現在の軌道跡

昭和29年に発生した大規模な地滑りとその後の整備の推移についても厳しい目を注ぐ。菱沼さんによると、事故の最大の要因は、やはり地下に網の目のように掘られた亜炭坑道。水平方向に広がる層だけを抜きとって、直下の凝灰岩層が水分を通さないため、地下水が表土の足元をすくったかたちだ。しかし長く放置された後によりやく始めた整備事業が、波打った表土にそのまま植栽し、本来埋めどすべり坑道を

奥の坑口へ、もう一方は東側山中の坑口へと伸びていたことがわかった。昭和19年に鉤山への道路が整備されて運搬の主流がトラックへと移ると同時に、戦局の悪化による鉄道の軍事輸送がなくなり、トロツコ軌道はその命を失った。鉤山自体は昭和40年ごろまで操業していたが、周辺の宅地化と燃料転換策の波に押され、こちらも消滅した。八木山一帯に点在した亜炭坑のほとんどはその後埋めもどされ、現在その位置を確認できる箇所は少ないが、金剛沢炭鉱は坑道の一部が排水溝として使われているため、今でもコンクリート補強された坑口を散策路から見ることが出来る。またトロツコ軌道跡も細道ながらほぼ現存しており、車通りを避ける人々の生活道として歩行者や自転車などに利用されている。

おわび 創刊号で「亜炭」とあるのは誤りで、おわびして訂正します。



排水施設として逆利用した上で「治山」と銘打ったことに対して、「うまいことやっただよ」と皮肉っぽく語った。

往時の鉤山や鉤夫達の様子にも詳しい。操業時の鉤山では百人ほどが働いていたという。採炭夫、運搬夫などに役割が分担され、さらに「一籠ナポ」で小遣い稼ぎに来る人が加わることもある。またトロツコが沢に落ちたり土砂崩れで小屋が流されたりといった事故もあつた。

調査報告書第18集  
足元から見る民俗(8)

歴史系博物館のあり方についての断想  
宮城県における山鉾・屋台を主体とする祭礼行事  
民俗と市場(2) 地域民衆の歴史的役割と文化的営為  
仙台の木綿染 地域産業の経済的役割 社会的 文化的意義  
くらし 明治時代の新聞から 一気仙治市 唐桑町、巨理町の事例  
堀焼窯元「佐大窯」の変容(3)  
—大正13年・昭和元年度の製品出荷状況

仙台市歴史民俗資料館  
仙台市宮城野区五輪一丁目3-7 (榴岡公園内)  
TEL: 022-295-3956 FAX: 022-257-6401

西多賀検定委員会編集  
西多賀の百問

●西多賀の地名の由来といわれているものは？  
●西多賀村の誕生はいつ？  
●西多賀村地域にある桜の名所はどこ？  
●西多賀村出身の仙台市長はだれ？  
●「西多賀」(しよたが)と「十手つてな」は？  
●「西多賀」(しよたが)と「十手つてな」は？  
●金剛沢で鉤山を発見したのはだれ？

平成20年度から22年度に実施した「西多賀検定」で出題した全百問の問題と解答・解説をまとめた冊子「西多賀の百問」ができました。作成委員が資料や写真を集め、また実際に現地を訪れ、1年間かけて完成しました。関連地図や年表も作成しました。窓口にありますので、是非ご覧ください。表紙の絵も作成委員の作品です。

公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団  
仙台市西多賀市民センター  
仙台市太白区西多賀3丁目6-8 TEL: 022-244-6721

写真は まち子どもたちが遊び育つ場所だった  
仙台的記憶  
一〇〇万都市の原風景  
写真/小野幹・高橋こうけん

●定価 1800円(税) ●A5版 110ページ  
編著 仙台都市生活誌研究会  
【発行所】無明舎出版 秋田市広面字川崎112-1  
TEL 018-832-5680 FAX 018-832-5137  
【印刷所】ぶりんていあ第二 【印刷所】松栄堂製本株式会社

仙台の地学  
数千万年の長い地史を反映している。そしてその歴史は、ひいては日本列島のおいたちと深く結びついている。この本は個々の現象や事実の単なる記載や説明だけでなく、またバラバラな知識の切り売りでもない。私たちは力のかぎりそれらを総合して、郷土のおいたちに焦点を合わせ、内容を組み立てたつもりである。

編著者 地学団体研究会仙台支部  
仙台市片平丁東北大学理学部内  
【発行所】  
東北教育図書株式会社 仙台市清水小路6  
電話(23)3748 振替 296

※連絡先等の引用は奥付のまま